

標 準 様 式

1. 精 度 管 理 表

基準点測量精度管理表

基準点測量精度管理表 その 1

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		作業班長	㊦
目的		期間		作業量		主任技術者			㊦

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				偏心	再測数	厳密網平均計算				摘要
					水平位置		標高				単位重量の標準偏差	許容範囲	高低角の標準偏差	許容範囲	
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲							
再測率															

点検測量									
測点番号	距離			水平角			鉛直角		
	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差

主要機器名称及び番号		
永久標識の種別等		
種別	数量	埋設様式
特記事項		

用紙の大きさはA 4判とする。

基準点測量精度管理表 その 1—2

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		作業班長	㊦
目的		期間		作業量		主任技術者			㊦

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				偏心	再測数	厳密網平均計算					摘要	
					水平位置		標高				新点位置の標準偏差 (m)						
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲			点番号	水平	許容範囲	標高	許容範囲		

点検測量									
測点番号	距離			水平角			鉛直角		
	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差

主要機器名称及び番号		
永久標識の種別等		
種別	数量	埋設様式
特記事項		

用紙の大きさはA4判とする。

基準点測量精度管理表 その1-3

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		作業班長	㊞
目的		期間		作業量		主任技術者			㊞

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				偏心	再測数	厳密網平均計算					摘要	
					水平位置		標高				新点位置の標準偏差 (m)						
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲			点番号	水平	許容範囲	標高	許容範囲		

点検測量									
測点番号	距離			水平角			鉛直角		
	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差	点検値	採用値	較差

簡易網平均計算						
各路線の残差						
路線番号	方向角 (")	許容範囲 (")	座標差 (cm)	許容範囲 (cm)	高低差 (cm)	許容範囲 (cm)

用紙の大きさはA4判とする。

基準点測量精度管理表 その2

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		作業班長	㊞
目的		期間		作業量		主任技術者			㊞

基線解析辺			仮定三次元網平均						三次元網平均計算	
測点名		辺長 (斜距離)	ΔX又は方位角		ΔY又は斜距離		ΔZ又は楕円体比高		斜距離の残差	
自:	至:		残差	許容範囲	残差	許容範囲	残差	許容範囲	残差	許容範囲

主要機器名称及び番号		
永久標識の種別等		
種別	数量	埋設様式
特記事項		

新点位置の標準偏差				
新点名	水平位置		標高	
	標準偏差	許容範囲	標準偏差	許容範囲

点検測量					
測点名		セッション番号		較差 (dN,dE,dU)	許容範囲
		点検値 (ΔX,ΔY,ΔZ)	採用値 (ΔX,ΔY,ΔZ)		
自:	至:				

用紙の大きさはA4判とする。

水準測量精度管理表

作業名		地区名		計画機関名		作業機関名		作業班長	㊦
目的		期間		作業量		主任技術者			㊦

環番号	距離	閉合差	許容範囲	観測者	距離	鎖部数	観測者毎標準偏差	正の回数	負の回数	零の回数	正の総和	負の総和	摘要	特記事項
			往復差から求めた全線の 1 km 当たりの標準偏差								単位重量当たりの観測の標準偏差			

主要機器名称及び番号	観測路線図	再測率				
		点検測量				
		区間	距離	点検値	採用値	較差
永久標識種別等						

用紙の大きさはA4判とする。

地形測量及び写真測量精度管理表

標定点設置精度管理表

地 区 名		作 業 量		作 業 機 関 名		主任技術者		社内検査者	
						印		印	
点 名	測量方式	平 均 法	座標較差 (最大)		高低の誤差又は 較差 (最大)	内角の閉合差 方向角の較差 (最大)			
			X	Y					
			m	m	m				
使 用 機 械						備 考			

用紙の大きさはA4判とする。

注1. 測量方式は、結合多角、単路線等を記入する。
 2. 平均法は、厳密水平(高低)網、簡易水平(高低)網又は三次元網平均等を記載する。

簡易水準測量精度管理表

作業名又は 地区名		作 業 量		作 業 機 関 名		主任技術者		社内検査者	
		点				印		印	
路線番号	距 離	閉合差の 許容範囲	閉合差	路線番号	距 離	閉合差の 許容範囲	閉合差		
	km	mm	mm		km	mm	mm		
使 用 機 器								備 考	

用紙の大きさはA4判とする。

注 閉合差の制限は、 $50\text{ mm}\sqrt{S}$ （既知点から既知点までの閉合差）、 $40\text{ mm}\sqrt{S}$ （環閉合差）により算出する。
 Sは観測距離（片道、km単位）とする。

対空標識設置（刺針）精度管理表

地区名		作業量		作業機関名		主任技術者		社内検査者	
		点				印		印	
明細簿 ページ	点名	写真番号		型	像の 見え	偏心距離	計 算	備 考	
		コース	写真						
磁針定数決定箇所		使用既知点数		定数の決定法		備 考			
箇所		点 算出							

用紙の大きさはA4判とする。

注1. 4倍以上の部分引き伸ばし空中写真上での対空標識の写りを次の判別記号で表示する。
 ◎：良く見える ○：なんとか判別できる ⊗：刺針又は間接（p₂）表示
 2. 計算の欄は、再計算の有無等について記入する。

フィルム航空カメラ撮影コース別精度管理表

地区名		縮尺	対地高度	基準面高 地面高	撮影高度	コース間 最小重複度	C	-	%	※	作業名		
地方名							C	-					
コース カメラ名							C	-					
焦点距離	mm	No. _____ 1/ No. _____ 1/	m	m	m	現 像 記 録						主任 技術者	印
飛行方向	撮影					現像日	年 月 日			社内 検査者	印		
N W ——— E S						フィルム	(—)						
月	h:m					フィルム長	m	ロール番号		社内検査 年月日	年 月 日		
日	5	液温	°C	現像時間	f/m								

写 真 番 号 No.	採 集 番 号	採 否	実 体 空 白 部	コース方向 重複度		回 転 ・ 傾 斜 角			航 跡 的 ず れ	階 調	光 輝 暗 影		シ ャ ド ー	ボ ケ ・ ブ レ	現 像 剤	乳 剤	ゴ ミ ・ キ ズ	雲 ・ 雲 影	煙 霧	ケ ラ レ	静 電 気	カ プ リ	指 標 明 否	計 器 明 否	対 標 明 否	障 害 事 項 そ の 他
				最小 OL	主 点 基 線 長	K	φ	ω			ハ レ ー シ ョ ン	暗 影 部														
		※																								

平均及集計																										
※ 監督 所見																							月	監督員		
※ 検査 所見																							日	検査員		

用紙の大きさは A 4 判とする。

注1. ※印の欄は、計画機関が記入する。
 2. ハレーションは、場所の判別(海、川、池、屋根等)を記入する。
 3. 撮影高度は、大きい方の値を(撮影高度) - (計画撮影高度) = 差(m)
 差 ÷ (計画対地高度) = %

フィルム航空カメラ撮影ロール別精度管理表

作 業 名		作 業 量	km ²	作業機関名		社内検査者	印
地区（地方）名			主任技術者		印		

番 号	ロール 番 号	撮影年月日	コース名	写 真 番 号		指 標 残 差 (mm)				残 存 縦 視 差 (mm)			備 考	
				左	右	左 S . D	左 MAX	右 S . D	右 MAX	0.020 以下	0.021～ 0.030	0.031以上		

用紙の大きさはA4判とする。

- 注 1. 指標残差の制限値は、同時調整作業の規定を準用する。
 2. 指標残差及び残存縦視差の測定は、第138条に規定する方法で数値化された空中写真に対してデジタルステレオ図化機を用いて行う。
 3. 指標残差の測定は、撮影日当り 1 モデルの測定。（1 ロール 2 モデルは必ず行う。1 ロール 3 日かかれば 3 モデル。
 1 日 2 ロール撮れば 4 モデルの測定となる）
 4. 写真座標の変換は、ヘルマート変換を用いること。残差は、S . D = 0.020 mm 以内。MAX = 0.030 mm 以内。

残存縦視差の測定 (mm)

1 +	2 +	3 +	4 +	5 +
6 +	7 +	8 +	9 +	10 +
11 +	12 +	13 +	14 +	15 +
16 ○+ 主点	17 +	18 +	19 +	20 +○ 主点
21 +	22 +	23 +	24 +	25 +
26 +	27 +	28 +	29 +	30 +
31 +	32 +	33 +	34 +	35 +

用紙の大きさは A 4 判とする。

- 注 1. 残存縦視差の測定位置は、主点基線を軸として密着写真上で横 2 cm、縦 3 cm の間隔を標準とする。
2. 出力データと対比できるように、測点番号を明記する。また、縦視差が制限を超えた地点は、その大きさを明記する。

撮影コース別精度管理表 (空中写真の数値化)

地区名 地方名	2500 都市計画図作成 ○○地区	縮 尺	撮影年月日	○○.○○.○○	作 業 機関名	
コース名	C10	1/12,500	使用スキャナ 装 置	○○○○○○	主 任 技術者	△ △ △ △ 印
カメラ名	RC-30/153.96	ロール 番 号	数値化 寸 法	0.021mm	社 内 検査者	◇ ◇ ◇ ◇ 印
飛行方向	→	1	ビット数	24 ビット (RGB カラー)	社内検査 年 月 日	年 月 日
数値化 月 日	1 月 9h10m 30 日 16h50m		データ形式	非圧縮 TIFF 形式	その他	

写真番号		採 否	範 圍 良 否	指 標 明 否	番 号 明 否	カ ウ ン タ 番 号	カ メ ラ 情 報 明 否	ゴ ミ ・ き ず	ボ ケ ・ ブレ	色 調 良 否	障 害 事 項 他 の
カ ウ ン タ 番 号	編 集 番 号										

用紙の大きさはA4判とする。

撮影ロール別精度管理表（空中写真の数値化）

作業名	2500 都市計画図 作成	作業量	作 業 機関名	主任技術者	○ ○ ○ ○ 印
地区名	○○地区			社内検査者	△ △ △ △ 印

番号	ロール 番 号	撮影年月日	コース名	写真番号	写真 枚数	最大指標 残差の許容範囲	NG*写真番号	備 考
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				
				～				

用紙の大きさはA4判とする。

*所定内精度基準値：最大値で 30 μ m 以内

デジタル航空カメラ撮影コース別精度管理表

地区名		地図情報レベル	地上画素寸法	基準面高 地面高	撮影高度	コース間	C C C C	%	作業機 関名
コース		計画	cm	m	m	最小重複度	C C C	%	主任技 術者
カメラ名									
焦点距離	mm					統合処理記録			社内 検査者
飛行方向	撮影	No.	c	m	m	統合日	年 月 日		
N 90° W → E S	月 日	No.	c	m	m	データ量	GB		
		差	cm	差	%	画像形式	各色 bit		
			cm	差	%	ビット数	非圧縮TIFF形式		社内検査 年月日
			cm		%	データ形式	非圧縮TIFF形式		年月日

写真番号		採 否	実 体 空 白 部	コース方向 重複度		回転・傾斜角			航 跡 の ず れ	統合処理良否			光 輝 暗 影		シ ャ ド ー	ス ポ ッ ト	ホ ケ ・ ブ レ	雲 ・ 霧 影 ・ 霧	サ ム ネ イ ル	画 像 確 認	其 他	※障 害	
No.	編 集 番 号			最小 OL	主点 基線長	K	φ	ω		同 定 精 度	情 報 劣 化	色 調	ハ レ ー シ ョ ン	暗 影 部									
集計					(最小値)	(最大値)																	
					%	%	(最大値)	(最大値)	(最大値)	(最大値)													

※	監督所見	
※	検査所見	

注1. ※印の欄は、計画機関が記入する。
 2. ハレーションは、場所の判別(海、川、池、屋根等)を記入する。
 3. 撮影高度は、大きい方の値を(撮影高度) - (計画撮影高度) = 差(m)
 $\frac{\text{差}}{\text{計画対地高度}} = \%$
 4. 飛行方向は、矢印と飛行方向角を記入する。

用紙の大きさは A 4 判とする。

GNSS / I M U 計算精度管理表

作業名または地区名			撮影年月日		使用カメラ			使用機器			計画機関名			主任技術者			印									
			撮影縮尺		使用レンズ			使用ソフト			作業機関名			社内検査者			印									
コース数		機体番号			キネマティック解析										最適軌跡解析											
写真枚数		使用した固定局			1)			2)			3)			仰角マスク		度		除外されたGNSSデータ数		最大連続除外数						
コース番号	撮影高度 (m)	写真番号	開始時刻	終了時刻	衛星最少数 (上下段)	DOP の平均値(上段)と 最大値(下段)			往復差の平均値(上段) と最大値(下段) (m)			解の品質基準				位置 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段) (m)			位置 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段) (m)			姿勢 標準偏差の 平均値(上段)及び 最大値(下段) (度)				
						PDOP	HDOP	VDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	安定フロート解	収束フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z		
作業者		社内検査期間			人日		オフセット・ボアサイト値		オフセット REF→GPS dx=		dy=		dz=		オフセット REF→IMU dx=		dy=		dz=		ボアサイト REF→IMU Tx=		同時調整 Ty=		Tz=	

用紙の大きさはA 4 判とする。

GNSS/IMU計算精度管理表(航空レーザ測量)

作業名または地区名		計測年月日		使用機器			計画機関名		主任技術者 ㊟															
		対地高度(m)		使用カメラ			作業機関名		社内検査者 ㊟															
		キネマティック解析(使用ソフト)			仰角マスク		度		除外されたGNSSデータ数		最適軌跡解析(使用ソフト)													
コース数		使用した固定局		1)			2)		3)			最大連続除外数												
コース番号	計測高度(m)	開始時刻	終了時刻	衛星数 平均(上段) 最少(下段)	DOPの平均値(上段)と最大値(下段)			往復差の平均値(上段)と最大値(下段)(m)			解の品質基準				位置標準偏差の平均値(上段)及び最大値(下段)(m)			位置標準偏差の平均値(上段)及び最大値(下段)(m)			姿勢標準偏差の平均値(上段)及び最大値(下段)(度)			
					PDOP	HDOP	VDOP	X(E)	Y(N)	Z	フィックス解	安定フロート解	収束フロート解	その他	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z	X(E)	Y(N)	Z	
作業者				社内検査期間		人日		オフセット・ボアサイト値		オフセット REF→GNSS		dx=	dy=	dz=	オフセット REF→IMU		dx=	dy=	dz=	ボアサイト REF→IMU		同時調整 Tx=	Ty=	Tz=

用紙の大きさはA4判とする。

同時調整精度管理表

作業名又は地区名			作業量	調整方法	作業期間						作業機関名	主任技術者	⑨				
			コース数 写真枚数	バンドル法	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日							社内検査者	⑨				
コース番号	撮影高度 (m)	写真番号	基準点数		計算から除外した点数		検証時の検証点較差 固定点以外全点記載			最終調整時の基準点残差 (下段に重量を () 書きする)			タイポイント交会残差 (下段に重量を () 書きする)				
			水平位置 (点)	標高 (点)	水平位置 (点)	標高 (点)	点名	水平位置 (m)	標高 (m)	点名	水平位置 (m)	標高 (m)	X		Y		XY
												標準偏差 (μm)	最大 (μm)	標準偏差 (μm)	最大 (μm)	標準偏差 (μm)	最大 (μm)
									(例)	0.10, 0.10	0.10	6.5		6.5			
許容範囲																15	30
										基準点残差 標準偏差 (m)							
										許容範囲							
							検証点較差 標準偏差 (m)			基準点残差 最大較差 (m)							
							許容範囲			許容範囲							
使用機械	デジタルステレオ図化機					作業者					社内検査 期間	人日					

標準偏差 = $\sqrt{(\sum r^2/n)}$ ここで r = 残差、n = 点数

用紙の大きさはA4判とする。

細部測量・地形補備測量・地図編集・数値編集
 現地補測・補測編集・数値地形図データ作成

精度管理表

作業名又は地区名		図名又は図面番号		縮 尺		作 業 量		作 業 期 間		作業機関名		主任技術者		社内検査者	
								自 年 月 日 至 年 月 日				印		印	
項 目		脱落	誤記	項 目		脱落	誤記	項 目		脱落	誤記	項 目		脱落	誤記
境界等 (11**)	種類			公共施設	形状 (41**)			諸 地 (621*)	区域界形状			※	図名又は図面番号		
	形状				その他の 小物体	記念碑等 (420*)				場 地 622*, 3*	記号の種類				整
道 路 (210*)	道路記号・道幅			橋 (220*)		消火栓 (421*)			植 生 (63**)		記号の種類			飾	
	形状				階段・トンネル (221*)	噴水・井戸(422*)				等高線 (71**)	記号の位置				等
道 路 施 設	構造物 (222*)			水 部		灯台 (424*)			変形地 (72**)		植生界等形状			接 合	
	側溝・並木(223*)				水部 構造物	観測所 (425*)				基準点 (73**)	植生記号の種類				図歴等
	道路標識等(224*)			法 面		輸送管 (426*)			注		形状			記	
	付属物(22 5*, 6*)				法 面	形状 (51**)				注	数値				記
鉄 道 (23**)	記号及び軌道幅			水部 構造物		栈橋 (520*)			注		種類			記	
鉄 道 施 設	形状				法 面	護岸 (521*)				注	位置・種類				記
	橋・トンネル(240*, 1*)			法 面		滝・水門 (522*)			注		数値			記	
建 物 (30**)	雪覆い等 (242*)				法 面	水制 (523*)				注	行政名				記
	種類			法 面		流水方向 (524*)			注		居住地名			記	
建 物 施 設	形状				法 面	距離標 (525*)				注	交通施設				記
	建物付属物 (34**)			法 面		人工斜面 (610*)			注		建物等			記	
建物記号 (35**)	種類				法 面	被覆 (611*)				注	小物体				記
	位置			法 面		法面保護 (612*)			注		水部等			記	
公共施設	種類				法 面	さく (613*)				注	土地利用				記
	種類			法 面		へい (614*)			注		地形等			記	

用紙の大きさはA4判とする。

- 注 1. 各工程作業ごとに、該当する項目を選んで図面単位に作成する。該当しない項目欄には斜線で抹消する。
 2. 各項目の脱落、誤記等は点検紙に基づいて集計し、その個数を記載する。
 3. ※印欄は、地形補備測量及び現地補測作業の場合記載しない。
 4. (***)は、取得分類コードを示す。

数値図化精度管理表

地区名					地図情報レベル		作業期間	自 年 月 日	至 年 月 日
図名又は図葉番号					作業量				
モデル番号	1	2	3	4	5				
図化機名									
作業員									

作業機関名	
主任技術者	印
社内検査者	印

図郭及びモデルの範囲

--	--	--

モデル番号	コース番号	写真番号		対地標定記録 (上段:基準点、下段:バスポイント等)										標定使用点数 上段:平面 下段:標高	接合の良否 上段:モデル間 下段:図郭間	
				平面位置の標定残差(m) [*]		標高の標定残差(m)										
				許容範囲内	許容範囲を超える	0.1 以内	0.2 以内	0.3 以内	0.5 以内	0.7 以内	1.0 以内	1.5 以内	1.5 を超える			
1		左	右													
2																
3																
4																
5																

モデル番号	図式分類 (図化漏れ数、誤コード数) 上段:図化漏れ 下段:誤コード																	備考		
	境界等	道路	道路施設	鉄道	鉄道施設	建物	建物付属物	建物記号	公共施設	その他小物体	水部	水部構造物	法面構困	諸地場地	植生	等高線	変形地		基準点	注記
	(11**)	(21**)	(22**)	(23**)	(24**)	(30**)	(34**)	(35**)	(41**)	(42**)	(51**)	(52**)	(61**)	(62**)	(63**)	(71**)	(72**)		(73**)	(81**)
1																				
2																				
3																				
4																				
5																				

用紙の大きさは A4 判とする。

注1 *平面位置の標定残差は第 79 条で規定する各地図情報レベルの誤差の許容範囲で判断する。

2 図葉単位に作成する。

数値地形図データファイル精度管理表

作業名又は地区名	図郭名又は図郭識別番号	地図情報レベル	作業量	作業期間	作業機関名	主任技術者	社内検査者
				自 年 月 日 至 年 月 日		印	印

項目	細 目		範囲	論理	目視	項目	細 目		範囲	論理	目視	項目	細 目		範囲	論理	目視	
ファイル形式	レコード長		ファイルごと			レコード内容	デ ィ ン ク ス	座標系	レ			レ コ ー ド 区 分 等	レ コ ー ド 記 述 内 容	注記	字隔	レ コ ー ド ご と		
	文字コード			計画機関名	注記			線号										
	記述書式			図郭識別番号	座標			データの重複										
	格納方式			内容記述	座標			方向性										
	ラベル			図郭名称	属 性			属性データ										
				地図情報レベル	グリッド			方向性										
レコード間 相互関係	ファイル全体		ファイルごと			レ コ ー ド 記 述 内 容	レ コ ー ド 区 分 等	作成年月	レ コ ー ド 区 分 等			レ コ ー ド 区 分 等	レ コ ー ド 区 分 等	地図分類	取得分類	レ コ ー ド 区 分 等		
	レ ィ ン ク ス	図郭レコード		現地調査年月	コード			情報分類										
		要素ヘッダレコード		入力機器名														
		要素レコード		公共測量承認番号														
		グリッドヘッダレコード		測地成果識別コード														
		2・3次元座標レコード		図郭識別コード														
				交換手法識別コード														
	図 郭	要素数		作業機関名														
		レコード数		撮影コース番号														
		要素ヘッダ		要 素	撮影年月													
		要素レコード		実データ	写真縮尺													
		グリッドヘッダ		グリッド	写真枚数													
		写真番号																
レ コ ー ド 間 相 互 関 係	インデックスレコード		要素	取得年月														
	図郭レコード		ヘッダ	数値化区分														
	要素ヘッダレコード		要素	取得年月														
	要素レコード		グリッド	取得年月														
	グリッドヘッダレコード		注記	文字列の方向														
				字大														

注 1. データファイル単位で作成する。
 2. 該当しない項目欄は斜線で抹消する。

用紙の大きさはA4判とする。

写真地図作成精度管理表

世界測地系

作業名				作業機関名				主任技術者				社内検査者			
地区名				図郭名				作業期間	自 年 月 日 ~ 至 年 月 日						

写真地図データファイル

数値地形モデル

番号	測定値		検測値		残差	番号	平面位置		測定値	検測値	残差
	x	y	X	Y			X	Y			
1						1					
2						2					
3						3					
4						4					
5						5					
6						6					
7						7					
8						8					
9						9					
10						10					
11						11					
12						12					
13						13					
14						14					
15						15					
16						16					
17						17					
18						18					
19						19					
20						20					
21						21					
22						22					
23						23					
24						24					
25						25					
色調	歪み	写真接合	図郭接合	平均値		許容範囲	地図情報レベル		平均値		
				最大値			水平位置(標準偏差)		最大値		
				標準偏差			標高点(標準偏差)		標準偏差		

注 点検箇所は21点以上とする。

用紙の大きさはA4判とする。

グラウンドデータ作成作業精度管理表

作業地区名		作業量	k m ²	作業機関名	
				主任技術者	印
				社内検査者	印

フィルタリングの点検記録									備考
図名	交通施設			建物等	小物体	水部等	植生	低密度域 の範囲	その他
	道路施設等	鉄道施設等	移動物体						

注 1 : 表は地図情報レベル 5000 単位でまとめて、地図情報レベル 2500 単位に記録する。

2 : フィルタリングの点検記録は、不処理の数を面単位で記載する。

用紙の大きさは A 4 版とする。

グリッドデータ作成作業精度管理表

作業地区名		作業量		作業機関名	
				主任技術者	印
				社内検査者	印

グリッドデータ作成作業の点検記録					備 考
図 名	標高値の誤り	グリッドの不備	属性データの不備	接合の不備	

注 1 : 地図情報レベル 5000 単位でまとめて、地図情報レベル 2500 単位に記録する。

2 : 点検記録は、不処理の数を記載する。

用紙の大きさは A 4 判とする。

数値地形図データファイル作成作業精度管理表

作業地区名		作業量		作業機関名	
地図情報レベル				主任技術者	印
2500図名				社内検査者	印

数値地形図データファイル作成作業の点検記録								備 考
項 目	ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造 の良否	ヘッダフォーマ ットの良否	テキストフォー マットの良否	ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造の 良否	ポリゴン図形 ファイル構造の 良否	
オリジナルデータ			/	/	/	/	/	
グラウンドデータ			/	/	/	/	/	
グリッドデータ	/	/	/	/	/	/	/	
水部ポリゴンデータ	/	/	/	/	/	/	/	

注1：点検記録は、不処理の数を記載する。

用紙の大きさはA4判とする。

応用測量精度管理表

路線測量精度管理表

仮BM設置測量精度管理表・・・水準測量に準ずる

詳細測量精度管理表・・・・・・縦断測量、地形測量及び写真測量に準ずる

条件点測量精度管理表

作業名		地区		計画機関		作業機関		点検者	印
路線名		期間	自 至	作業量		主任技術者	印	その他	

測点	水平位置(距離)				摘要	測点	水平位置(距離)				摘要	
	計算値	測定値	較差	許容範囲			計算値	測定値	較差	許容範囲		

用紙の大きさはA4判とする。

I P 設置測量精度管理表

作業名		地区		計画機関		作業機関		点検者	印
路線名		期間	自 至	作業量		主任技術者	印	その他	

測点	水平位置(距離)				摘要	測点	水平位置(距離)				摘要
	計算値	測定値	較差	許容範囲			計算値	測定値	較差	許容範囲	

用紙の大きさはA4判とする。

中心線測量精度管理表

作業名		地区		計画機関		作業機関		点検者	印
路線名		期間	自 至	作業量		主任技術者	印	その他	

測 点	水平位置 (距離)				摘 要	測 点	水平位置 (距離)				摘 要	
	計算値	測定値	較 差	許容範囲			計算値	測定値	較 差	許容範囲		

用紙の大きさはA4判とする。

縦断測量精度管理表

作業名		地 区		計画機関		作業機関		点検者	印
路線名		期 間	自 至	作 業 量		主任技術者	印	その他	

路線番号	距 離	閉 合 差	許容範囲	摘 要	路線番号	距 離	閉 合 差	許容範囲	摘 要	観測者
										主要機器の名称及び番号
										レベル
										標尺 (箱尺)
										手簿、計算簿の誤りの有無
										再測率%

用紙の大きさはA4判とする。

横断測量精度管理表

作業名		地区		計画機関		作業機関		点検者	印
路線名		期間	自 至	作業量		主任技術者		印	その他

測 点	水 平 位 置 (距 離)								標 高												摘 要	
	測定値		検測値		較 差		許容範囲		測定値		検測値		較 差		許容範囲							
	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側	左側	右側						
																						手簿、計算簿の誤りの有無

用紙の大きさはA 4判とする。

用地幅杭設置測量精度管理表

作業名		地 区		計画機関		作業機関		点検者	印
路線名		期 間	自 至	作 業 量		主任技術者	印	その他	

測 点	水平位置(距離)				摘 要	測 点	水平位置(距離)				摘 要	
	計算値	測定値	較 差	許容範囲			計算値	測定値	較 差	許容範囲		

用紙の大きさはA4判とする。

河川測量精度管理表

- 河川測点設置測量精度管理表・・・中心線測量に準ずる
- 縦断測量精度管理表・・・・・・・・縦断測量に準ずる
- 横断測量精度管理表・・・・・・・・横断測量に準ずる
- 法線測量精度管理表・・・・・・・・中心線測量に準ずる
- 海浜測量精度管理表・・・・・・・・横断測量及び地形測量に準ずる

用地測量精度管理表

用地実測図精度管理表・・・地形測量及び写真測量に準ずる
用地平面図精度管理表・・・地形測量及び写真測量に準ずる

境界測量精度管理表

作業名		地 区		計画機関		作業機関		点検者	印
路線名		期 間	自 至	作 業 量		主任技術者	印	その他	

測 点	水 平 位 置 (距 離)				摘 要	測 点	水 平 位 置 (距 離)				摘 要	
	計 算 値	測 定 値	較 差	許 容 範 囲			計 算 値	測 定 値	較 差	許 容 範 囲		

※ 境界測量精度管理表は、境界点間測量観測簿を兼ねる。
用紙の大きさはA4判とする。

2. 品質評価表

各測量共通

品質評価表 総括表

製品名	タイトル (製品を表す名称)		
ライセンス	著作権がある場合は組織名称	作成時期	作成年月日
作成者	本製品を作成する組織名称	座標系	利用した座標系
領域又は地名	地理範囲 (作成地域)	検査実施者	組織名称、役職名称、個人名称

番号	データ品質適用範囲	品質要求					品質評価結果 (合否)
		完全性	論 理 一貫性	位 置 正確度	時 間 正確度	主 題 正確度	

【参考】

- ・空間データ製品仕様書作成マニュアル JPGIS 版 Ver. 1.0 H17.3 国土地理院
- ・空間データ品質評価に関するガイドライン 品質評価手順書 Ver. 1.0 H16.3 地理情報標準普及・利用推進委員会、国土地理院
- ・JMP2.0 仕様書 国土地理院
- ・品質の要求、評価及び報告のための規則 Ver. 1.0 H19.3 (一部改定) 国土地理院

用紙の大きさはA4判とする。

品質評価表 個別表

データ品質適用範囲				
品質要素		品質要求	品質評価方法	品質評価結果
完全性	過剰			
	漏れ			
論 理 一貫性	書式一貫性			
	概念一貫性			
	定義域一貫性			
	位相一貫性			
位 置 正確度	絶対又は外部 正確度			
	相対又は内部 正確度			
	グリッドデータ位置 正確度			
時 間 正確度	時間測定正確度			
	時間一貫性			
	時間妥当性			
主 題 正確度	分類の正しさ			
	非定量的属性の 正しさ			
	定量的属性の 正確度			

1. データ品質適用範囲は、品質評価の対象とするデータの内容又は範囲を記述する。
(地物の名称等データの特性や空間的な範囲、時間範囲を指定する。)
2. 品質要求は、製品仕様書に記述されている品質要件の概要を記述する。
3. 品質評価方法は、製品仕様書に記述されている品質評価方法の概要を記述する。
4. 品質評価結果は、品質評価方法に基づいた評価結果を記述する。

用紙の大きさはA4判とする。

3. 成果等

基準点測量

基準点成果表 その 1

世界測地系
調製 年 月 日

基準点成果表

(AREA)

B X
L Y
N H
ジオイド高
柱石長
縮尺係数

視準点の名称		平均方向角		距離		備考	
				m			
埋標型式	地上	地下	屋上	標番	識号	標金属	石標

用紙の大きさは A4 判とする。

基準点成果表 その2

等級：

世界測地系
調製 年 月 日 | | |

点の 番号	X	Y	辺 長	方 向 角	標 高	ジオイド高
			S	T	H	
	m	m	m	° ' "	m	m
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.
	.	.	.	- -	.	.


用紙の大きさはA4判とする。

座標系： 縮尺係数： 網平均計算の種類：

注 号線（1）より順に記載し、号線が変わるごとに1行あけて次の号線を記載する。

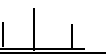
点 の 記

様式第3-3

ふりがな 点 名		1/20 万図名	1/2.5 万図名	
選点番号	第 号	設置区分	(保護石 個)	
標識番号	第 号		柱石長	
所在地				地 目
所有者				
選 点		選 点 者		
設 置		設 置 者		
観 測		観 測 者		
自動車到達地点				
歩道状況				
徒歩時間(距離)				
点周囲の状況				
履 歴 (1)				
履 歴 (2)				
備 考				アンテナ高 m
要 図 縮尺：1/ N 				

用紙の大きさはA4判とする。

水準測量観測成果表



自

至

観測路線番号

観測者	1/50,000 図名	所在地			標尺番号	観測 月日	水準点号			距離	測点数	水準差			観測の標高	補正数	結果	備考
		県	郡市	町村			水 番	準 号	点 号			一回	二回	標尺 補正数				

用紙の大きさはA3判とする。

地盤沈下調査水準測量成果表（変動計算簿）



観測の基準日 平成 年 月 日

地区	路線番号 水準点番号	距離	結果		変動量 I - II	備考
			I	II		

用紙の大きさはA4判とする。

成果数値データファイル標準様式

基本構造

- 1) 1行1レコードのカンマ区切りのテキストファイルとする。
- 2) 文字コードはASCIIコード、漢字コードはシフトJISコードとする。
- 3) 拡張子は“TXT”とする。
- 4) レコードの記述方法

データ区分	区切り	項目1	区切り	・・・	項目 n	区切り	CRLF
-------	-----	-----	-----	-----	------	-----	------

データ区分 その行のデータの種類の表す記号。1文字目が英字、2,3文字目が数字の3文字とする。
 区切り 各データの項目は、「,」（カンマ）によって区切るものとする。
 項目を省略する場合は、「, ,」とする。（スペースは入れない。）
 項目1～項目n データ区分に応じて項目数は変わる。項目数は記述内容のとおり。
 CRLF 各行の終了コード（0D0Ah）で、各行の最大長は、CRLFを含まず、128バイトとする。

留意事項

- 1) 名称・コメントなど、文字として認識するデータには、“,”（カンマ）を使用しない。
- 2) 点名、測器名称、標尺名称、水準点番号などの名称、コメントは全角文字（英数字については半角文字を原則とする）とし、それ以外のデータは、半角文字とする。

記述内容

1) 説明文

データ区分：Z00～Z02

内 容：作業内容のコメントを記載する。

Z00 作業区分：新設、改算による座標変換、改測による座標変換

Z01 作業年度、作業地域、基準点区分

Z02 測地系：0（世界測地系）、平面直角座標系番号

2) 開始データ

データ区分：A00（基準点）、S00（水準点）

内 容：成果表データの開始フラッグ

3) データ

データ区分：A01（基準点）、S01（水準点）

内 容：点番号、点名、緯度、経度、X座標、Y座標、座標系、標高、ジオイド高

①点番号：基準点は5桁の整数、水準点は11桁の整数を標準とする。

②名 称：40バイト以下

③緯 度：小数点形式とし秒以下4桁とする。（DD° .MM′ SS″SSSS）

④経 度：小数点形式とし秒以下4桁とする。（DDD° .MM′ SS″SSSS）

⑤X座標：小数点形式、m単位とし、基準点はm以下3桁まで、水準点はm以下1桁までとする。

⑥Y座標：小数点形式、m単位とし、基準点はm以下3桁まで、水準点はm以下1桁までとする。

⑦座標系：平面直角座標系番号

⑧標 高：小数点形式、m単位とし、基準点はm以下3桁まで、水準点はm以下4桁までとする。

⑨ジオイド高：（基準点に適用）小数点形式、m単位とし、m以下3桁までとする。

等 級：（水準点に適用）2桁の整数とする。

11～13：1等～3等

21～24：1級～4級

25：簡易

4) データの終了

データ区分：A99（基準点）、S99（水準点）

内 容：成果表データの終了フラッグ

基準点現況調査報告書

	自： 年 月 日 至： 年 月 日	作業名 日間 作業機関名 調査者	印
--	----------------------	---------------------------	---

1/2.5万 図名	級 種類	番号	名称 (番号)	所在地 (市町村名)	現況区分	現況地目	備考
日誌	Ⅲ△	是(3)	白山	〇〇市	正常		

用紙の大きさはA4判とする。

測量標設置位置通知書

点			所在地	地目	標識		設置年月日	備考
級	番号	名称			種類	番号		
			〇〇県〇〇郡〇〇町〇〇字〇〇246-8					

用紙の大きさはA4判とする。

測 量 標 新 旧 位 置 明 細 書

作 業 区 分	級 種別	番号・名称	新	所 在 地	地 目	敷 地 面 積	復旧を行った 理 由	設置年月日	備 考
			旧						
移 転	Ⅲ△	冠(○)○○	新	○○県○○郡○○町○○字○○246-8	○○○		測量標効用保全 のため	H 12.6.21	
			旧	○○県○○郡○○町○○字○○37	○○			S 26.9.15	
			新						
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						
			新						
			旧						

作業区分欄には移転、改埋、再設または廃棄の区分を記載する。
用紙の大きさはA4判とする。

地形測量及び写真測量

対空標識 刺 針 点明細表

様式第 3 - 1 1

世界測地系

等級点名		1/2.5万図名		作業者				
標識の様式	A B C	標識	標石より	m	点検者			
	D E		偏心杭より	.				
標識の色	白	点	地面より	m	設置年月日			
座標系		X	.	N	Y	.	E	H
点の座標	本点	m		m		m		
	偏心点	.		.		.		
	予備点	.		.		.		
点付近見取図				地上写真				
N								
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">C - No.</div> <div style="text-align: center;">↑ 北</div> <div style="text-align: center;">C - No.</div> </div> <div style="border: 1px dashed black; width: 80%; margin: 10px auto; height: 150px;"></div>								

用紙の大きさはA4判とする。

フィルム航空カメラ撮影記録簿

地区名				作業機関						撮影士				操縦士				整備士																					
撮影年月日	平成 年 月 日			基地			機体			JA			カメラ			離陸			時 分																				
	着陸			時 分																																			
撮影高度	ft			ft			基地標高			m			レンズ	F			飛行時間			時 分																			
	A m			B m			基準面標高			A m				B m			No.																						
縮尺	1			1			計器高度			m			フィルム				計器速度			km/H ML/H																			
気象	天気			気流			風向			°			煙霧			気温			ft			°C			地上(離)			°C			気圧			離陸			hPa		
							風速			L/H									ft			°C			地上(着)			°C			着陸			hPa					
コースNo.	開始時刻	終了時刻	フィルター	露出	絞り	修正角	フィルムNo.	枚数	進行方向	摘要	GNSS/IMU			GNSS/IMU初期化方法																									
							～				(撮影区域全体を表示する)																												
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
							～																																
ロールNo.				- コース			マガジンNo.						合計																										
				- コース			マガジンNo.						枚																										

注1. 撮影されたコースは、中間検査後撮影略図のコースを赤線に表示する。
 注2. 採用時にA, Bコースと分割して採用されたときは、コースNo. 欄に「○A, ○B」と記載し、撮影略図にABコースの範囲を明確に表示する。
 注3. 基準面を異にして撮影する場合は、A, Bに区別する。
 用紙の大きさはA4判とする。

デジタル航空カメラ撮影記録簿

地区名		作業機関		撮影士		操縦士		整備士					
撮影年月日	平成 年 月 日		基地	機体	JA	カメラ	f: mm		離陸	時 分			
							基準面標高		記録処理ユニット		着陸	時 分	
撮影高度	ft		ft		m		m		飛行時間	時 分			
	A	m	B	m	A	m	B	m					
地上画素寸法	cm		cm		m		m		計器速度	kt/H			
			計器高度		センサーユニット								
気象	天気	気流	風向	°	煙霧	気温	ft	°C	地上(離)	°C	気圧	離陸	hPa
							ft	°C	地上(着)	°C		着陸	hPa
コースNo.	開始時刻	終了時刻	露出	絞り	修正角	数値写真No.	枚数	進行方向	摘要	GNSS/IMU	GNSS/IMU初期化方法		
						～				(撮影区域全体を表示する)			
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
						～							
									合 計				
									枚				

注1. 撮影されたコースは、中間検査後撮影略図のコースを赤線で表示する。
 注2. 採用時にA, Bコースと分割して採用されたときは、コースNo. 欄に「○A, ○B」と記載し、撮影略図にABコースの範囲を明確に表示する。
 注3. 基準面を異にして撮影する場合は、A, Bに区別する。
 用紙の大きさはA4判とする。

デジタル航空カメラ撮影諸元

撮影地区名		作業機関名		主任技術者		
地上画素寸法		cm	使用カメラ（製造番号）			
メディアラベル名						
番号	コース名	数値写真ファイル名		数量	撮影年月日	備考
1		～				
2		～				
3		～				
4		～				
5		～				
6		～				
7		～				
8		～				
9		～				
10		～				
11		～				
12		～				
13		～				
14		～				
15		～				
16		～				
17		～				
18		～				
19		～				
20		～				
21		～				
22		～				
23		～				
24		～				
25		～				
26		～				
27		～				
28		～				
29		～				
30		～				

固定局観測記録簿

作業名		GNSS受信機	
観測日時		作業開始時間	
観測者		作業終了時間	
観測地点名		備考	
アンテナ高	m		

観測NO.	時刻	PDOP	衛星数	メモリ残	バッテリー残	天候	備考

観測状況は10～15分間隔で記入すること。
 PDOP、衛星数、降雨等状況が変化した場合も記入すること。

用紙の大きさはA4判とする。

空中写真数値化 作業記録簿・点検記録簿

地区名	2500都市計画図作成 〇〇地区	作業機関	〇〇〇〇株式会社	作業者	〇〇〇〇
数値化年月日	2005.12.15	撮影縮尺	1/12,500	航空カメラ	RC-30/153.96
使用スキャナ装置	PhotoScan	スキャナ 点検証明書 取得年月日	2005.08.22	点検機関	□□□□株式会社

点検項目

項目	内容	良否	備考
ランプ	スキャナランプ切れ・照射不足がないかを確認する	良	
電源	スキャナの電源部分に故障がないかを確認する	良	
システム	数値化ソフトウェアが正常に動作することを確認する	良	
動作異常	スキャナ動作時における動作異常がないことを確認する	良	
テストスキャン	数値化結果に幾何精度・輝度値に異常がないかを確認する	良	

コース No.	開始 時刻	終了 時刻	数値化 寸法	ピ ット 数	画 像 形 式	写真番号	枚 数	飛 行 方 向	摘要	(撮影地域全域を表示する)	
											枚 合計 枚 枚
4	11 ^h 32'	12 ^h 12'	0.021	24	TIFF	1 - 19	19	→			
3	13 ^h 05'	13 ^h 52'	〃	〃	〃	1 - 20	20	←			
2	14 ^h 12'	15 ^h 06'	〃	〃	〃	1 - 19	19	→			
1	15 ^h 17'	16 ^h 27'	〃	〃	〃	1 - 21	21	→			
5	16 ^h 34'	17 ^h 16'	〃	〃	〃	1 - 17	17	←			
								枚	合計		
								枚	枚		

数値化寸法の単位はmmとする。ビット数が「8」は白黒、「24」はカラーを意味する。

用紙の大きさはA4判とする。

航空レーザ測量システム点検記録

作業名		機体		平成	年	月	日
				点検者			
キャリブレーションサイト名							
機器名		番号					
離陸時間	時	分	計測開始	時	分		
着陸時間	時	分	計測終了	時	分		

ローリングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正值 (角度)	備考
C-							

ピッチングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正值 (角度)	備考
C-							

横縮尺キャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正值	備考
C-							

標高値（測距）キャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正值 (cm)	備考
C-							

キャリブレーション後の標高差

cm

用紙の大きさはA4判とする。

固定局明細表

世界測地系

点名		1/5万地形図 名		観測者	
観測年月日		標識種類		点検者	
所在地					
所有者	連絡先				
座標系	平面直角座標系				
座標	X	m	標高	m	
	Y	m	ジオイド高	m	
経緯度	B				
	L				
電子基準点番号					
GNSS機種			解析ソフト名		
観測レート		秒	仰角	°以上	
機械高		m	観測時間	h	m
PDOP			衛星数	衛星	
平面位置図			観測写真		

用紙の大きさはA4判とする。

航空レーザ計測記録

地区名				作業機関				計測士				操縦士					
計測年月日				基地				機体	JA	離陸時間	時 分						
高度				基地標高				速度				着陸時間	時 分				
				基準面								計測機器名	No.				
気象	天気			気流			風向	°	風速			気温	°				
コース	開始時間	終了時間	偏流角	コース	開始時間	終了時間	偏流角	撮影略図									

* コース番号は、連続の場合は省略してもよい。開始時間、終了時間は最初と終了で途中のコースは省略できる。

* 偏流角も適宜省略できる。

用紙の大きさはA4判とする。

調整用基準点・
コース間点検箇所 配点図

作業年度	地区名	作業機関名	(計測コース)			
C1	▽基 1	▽基 2	C1			
C2	○T1-1	○T1-2	○T1-3	○T1-4	C2	
C3	○T2-1	○T2-2	○T2-3	○T2-4	C3	
C4	○T3-1	○T3-2	▽基 3	○T3-3	○T3-4	C4
C5	○T4-1	○T4-2	○T4-3	○T4-4	C5	
C6	○T5-1	○T5-2	○T5-3	○T5-4	C6	
	▽基 4	▽基 5				

注：一覧図は、1/25,000 地形図又は 1/50,000 地形図を使用する。
調整用基準点は一辺 4mm の正三角形、点検ポイントは半径 2mm の円で表示する。また、名称を記載する。

用紙の大きさは A4 判とする。

調整用基準点明細表

世界測地系

点 名		1/5 万地形図名		作 業 者	
作業年月日		座 標 系		点 検 者	
点 名	X	・	N	Y	・
				E	H
1 / 2.5 万見取図			地 上 写 真		
計測点図					

用紙の大きさは A 4 判とする。

三次元計測データ点検表

世界測地系

地区名				作業者	
				点検者	
点名				実測値 H =	m
No.	X	Y	Z	ΔZ 較差(H-Z)	備考
点数(n)					
平均値($\bar{\Delta Z}$)					
最大値					
最小値					
RMS誤差 = $\sqrt{\frac{\sum (\Delta Z)^2}{n}}$					

用紙の大きさはA4判とする。

調整用基準点調査表

世界測地系

地区名					作業者				
番号	点名	水準結果	三次元計測データの平均	水準との差 ΔH	番号	点名	水準結果	三次元計測データの平均	水準との差 ΔH
1					11				
2					12				
3					13				
4					14				
5					15				
6					16				
7					17				
8					18				
9					19				
10					20				

	データ数	平均値(m)	最大値(m)	最小値(m)	最大値-最小値	標準偏差 $= \sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n-1}}$
計測範囲全域の 水準との差						

用紙の大きさはA4判とする。

コ ー ス 間 点 検 箇 所 残 差 表

世界測地系

地 区 名							作業機関		
							作業者	点検者	
点 名	C -			C -			較 差	備 考	
	X	Y	Z	X	Y	Z	△H		
* 電子計算機タイプの場合は、その用紙を使用できる。 ただし、上記の内容を満足するものとする。						点 数 (n)			
						平 均 値 (m)			
						最 大 値 (m)			
						最 小 値 (m)			
						標準偏差 = $\sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n-1}}$			

用紙の大きさは、A4判とする。

欠測率調査表

地区名							作業者	
							点検者	
図名	欠測率%	図名	欠測率%	図名	欠測率%	図名	欠測率%	
全域平均		最小		最大				

用紙の大きさはA4判とする

調整用基準点残差表

様式第3-25

地区名							作業機関			
							作業者	点検者		
点名	実測値			調整前			調整後	較差	備考	
	X	Y	H	X	Y	H	H	(m)		
* 電子計算機タイプの場合は、その用紙を使用できる。 ただし、上記の内容を満足するものとする。						調整量(m)				
						最小値				
						最大値				
						平均値				
						標準偏差				
						RMS誤差				

※RMS誤差 = $\sqrt{(\text{平均値})^2 + (\text{標準偏差})^2}$

用紙の大きさはA4判とする。

既存データ検証結果表

様式第 3 - 2 6

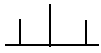
地区名 (A)				作業 者		
隣接地区名 (B)				点 検 者		
図 名	計測点数		計測点標高平均値		較 差	備 考
	A 地区	B 地区	A 地区	B 地区		
* 本地区を A 地区とし、隣接地区を B 地区とする。				最 小 値		
				最 大 値		
				平 均 値		
				RMS誤差		

※RMS誤差 = $\sqrt{(\text{平均値})^2 + (\text{標準偏差})^2}$

用紙の大きさはA4判とする。

応用測量

縦断測量成果表



測 点	単 距 離	追加距離	杭 高	地 盤 高	備 考
	m	m	m	m	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	

用紙の大きさはA4判とする。

点 の 記



路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類	路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類
		木杭、プラ杭、鉋、刻み			木杭、プラ杭、鉋、刻み
所在地			所在地		
要 図			要 図		
路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類	路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類
		木杭、プラ杭、鉋、刻み			木杭、プラ杭、鉋、刻み
所在地			所在地		
要 図			要 図		

用紙の大きさはA4判とする。

平成 年 月 日

土地所有者 住所
 電話番号
 氏名 印

隣接土地所有者 住所 印
 氏名 印
 住所 印
 氏名 印
 住所 印
 氏名 印

土地境界確認書

下記記載の土地の境界は、現地で立会いのうえ、相違ないことを確認しました。

都 市 区 町
 県 郡 区 村

区分	大字	字	地番	地目	登記簿地積	登記名義人	摘要
対 象 地							
	不動産番号						
隣 接 地	不動産番号						
	不動産番号						
隣 接 地							
	不動産番号						
隣 接 地	不動産番号						
	不動産番号						

用紙の大きさはA4判とする。

土地調査表

整理 番号	
----------	--

不動産登記簿				分	用地		土地の登記 記録調査	調 査 年 月 日	調 査 者
表題部		甲区欄			符号	地積	法人登記簿又は 商業登記簿調査		
所在地	都 郡 区			割			権利者調査		
	県 市						現況調査		
町 大字 字									
村									
地番		地目		の	残地		課税評価格		
不動産 番号				部	符号	地積	所有権以外の権利又は仮登記及び予告登記の調査		
地積									
所有者			連絡先電話番号						
備考				現 況 調 査	地目	地積			
権登業 利記登 者簿記 法又簿 人は調 商査			その他土地等の評価に必要な資料の調査						

用紙の大きさはA4判とする。

建物の登記記録等調査表

		調 査 年月日		調 査 者		整 理 番 号	
1. 建物の登記記録調査					不動産番号		
所 在 地	都 市 区 町 村	大 字	字	番 地			
所 有 者	住 所 又 は 所 在 地						
	氏名又は法人・代表者氏名				生 年 月 日		
					電 話 番 号		
家 屋 番 号	主 家 ・ 附 属 の 別	種 類	構 造	床 面 積	建 築 年 次	備 考	
所有権以外の権利者に関する事項及び仮登記等の事項					法定代理人等		
2. 立木の登記記録及びその他の登記簿調査							

用紙の大きさはA4判とする。

権 利 者 調 査 表

				調 査 年月日		調 査 者		整 理 番号	
土地に関する権利者 (被相続人又は法人)	住 所 所 在 地				法定代理人又は保佐人 の住所及び氏名	住 所			
	氏名又は名称 生 年 月 日					氏 名			
	本 籍 地				法人を代表する者の 住所及び氏名	住 所			
	相 続 年 月 日					氏 名			
相続人の氏名	生 年 月 日 死 亡 年 月 日	被相続人との続柄	住 所	本 籍	相続分	摘 要	符 号		

(注) 1 「摘要」の欄には相続放棄、相続欠格などを記入のこと。
 2 相続系譜は別紙に作成すること。

4. 建標承諾書

建 標 承 諾 書

平成 年 月 日

殿

所有者 住所

管理者 氏名

印

基 準 点	等 級	名 称	標 識 番 号
	級		

所在地	都道府県	市 郡	町 村	大 字	字	番 地	俗 称	地 目

上記 地内に 級 点の標識を
設置することを承諾する。

用紙の大きさはA4判とする。

- 注1. この標識は○ ○で設置したもので各種測量の基準となる重要な標識でありますから、動かしたり、破損したり、しないようご注意願います。
2. なお、記載内容は、測量標の利用者が所在地及び所有者を確認するために必要となる測量記録（点の記）に記載されます。
3. 不要の文字は抹消すること。

建 標 承 諾 書

平成 年 月 日

殿

所有者 住所

管理者 氏名

印

水 準 点	等 級	名 称	標 識 番 号
	級		

所在地	都道府県	市 郡	町 村	大 字	字	番 地	俗 称	地 目

上記 地内に 級 点の標識を
設置することを承諾する。

用紙の大きさはA4判とする。

- 注1. この標識は○ ○で設置したもので各種測量の基準となる重要な標識でありますから、動かしたり、破損したり、しないようご注意願います。
2. なお、記載内容は、測量標の利用者が所在地及び所有者を確認するために必要となる測量記録（点の記）に記載されます。
3. 不要の文字は抹消すること。

5. 確定測量点検記録表等

一筆地測量点検記録表

地 区		作 業 名		計画期間		作業機関	
作 業 量		主任技術者	Ⓢ	点 検 者	Ⓢ		

測 点	辺 長				摘 要	測 点	辺 長				摘 要	
	計算値	測定値	較差	制限			計算値	測定値	較差	制限		

用紙の大きさはA4判とする。

筆界点座標検測記録簿

観測点名	検測点名	観測値		検測値		Δ X	Δ Y	差	制限
		X	Y	X	Y				
		km m	km m	m	m	mm	mm	mm	mm
		平成 年 月 日	整理抄写	記入者			点検者		

用紙の大きさはA4判とする。